



Title	新指導要綱に対応した情報処理入門の内容の検討開始について
Author(s)	黒川, 不二雄
Citation	
Issue Date	2008-03-11
URL	http://hdl.handle.net/10069/15729
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-25T08:13:44Z

全学教育FDワークショップ(情報処理科目)

新指導要綱に対応した情報処理入門の内容の検討開始について

情報処理科目委員会
黒川不二雄

2005年情報処理科目委員会報告 「2006年度全学教育情報処理科目案」

1. 2006年問題への対応について

- 平成18年度より、新指導要領で教育を受けた学生が入学する。彼らは、高校において教科「情報」を受講している。しかし、その授業科目は、情報A、BおよびCの3種類に分かれ、また、その授業内容の充実度や学生の理解度は、多様であることが予想される。
- そこで、本委員会では、このことに関してワーキングを作り、平成15年より13回に渡って検討してきた。さらに作業部会を組織し、そこでも3回の検討会を開き、具体的なシラバスの素案を作り、それを元にワーキングで検討を加えた。
- その結論として、様々なレベルの学生に対応するために、現状の1科目の他にもう1科目を新たに設立することを提案する。

2. 科目名、単位等について

- 科目名は、「情報処理入門」および「コンピュータ入門」とし、前者は従前と同じ演習を中心に組んだ科目であり、後者は座学を中心とした新たに企画した科目である。
- 単位数は、それぞれ2単位とし、どちらかを必修とし、他方を選択とする。必修あるいは選択とする科目は、各学科あるいは学部毎に決めていただく。

演習を中心とする科目「情報処理入門」(2単位)の内容

教育目標:情報メディア基盤センターの端末を利用出来るようになる。さらに、専門課程の学習にも役立てられるように、技術的な基礎および原理の概要を習得させる。

(開講の例)

- 第1回 セキュリティーと情報倫理
情報メディア基盤センターの端末を使う上でのマナーを教える。
これにより、やっつけはいけないことを周知徹底させる。
- 第2回～第7回 基本操作
情報メディア基盤センターの端末を使うようにリテラシー教育を行う。ワープロソフト、表計算ソフト、メールソフト、プレゼンテーションソフト、WWWでの検索の使い方を演習主体で教える。
これにより、高校までの復習も兼ね、学生のレベルの標準化を図る。
- 第8回～第14回 応用操作
課題を取り上げ、総合演習を行う。
これにより、興味ある身近な話題を取り上げ、コンピュータの必要性を理解させ、学習に役立たせる。
- 第15回 まとめ
その他の講義例としては、ワープロソフトあるいは表計算ソフトのような単位の途中で基本と応用操作を個別に順次行うということが考えられる。
- この科目は、現在の「情報処理入門」を踏襲した科目であり、内容の変更等は、特に必要ない。

座学を中心とする科目「コンピュータ入門」(2単位)の内容

教育目標:コンピュータの仕組みを理解した上で、ソフトウェアの有効な利用が出来るようになる。さらに、専門課程の学習にも役立てられるように、応用が利くような技術的な基盤を築かせる。

(開講の例)

[情報とコンピューティング]

- 第1回 コンピュータの歴史
- 第2回 コンピュータの仕組み(1)
- 第3回 コンピュータの仕組み(2)
- 第4回 ソフトウェアシステムと命令語の構成
- 第5回 情報のデジタル化(1)
- 第6回 情報のデジタル化(2)
- 第7回 ハードウェアの基礎
- 第8回 プログラミングの基礎

[情報とコミュニケーション]

- 第9回 ネットワークの仕組み(1)
- 第10回 ネットワークの仕組み(2)
- 第11回 電子メール
- 第12回 WWWと検索エンジン
- 第13回 知的財産と情報倫理
- 第14回 セキュリティーと情報倫理
- 第15回 まとめ

平成19年度第3回情報処理科目委員会議事要旨

平成21年度からの「情報処理入門」授業内容の検討について

- 委員長から、これまで実施してきたアンケート結果を受け、平成21年度からの情報処理入門の授業内容について、新たな授業内容を検討開始する必要があるか提起があった。
- 審議の結果、学生個々の能力差、能力別クラス編成、選択必修科目の配置等、変更の検討の必要性について意見が出され、今後WGを立ち上げ検討を開始することとなった。

→ 本FDの趣旨:皆様のご意見を参考にしたい。